



布施だより

《 第51代生徒会 ～ 無効票0 (*^o^*) ～ 》

第51代生徒会正副会長選挙立ち合い演説会が11月17日(火)にありました。

候補者諸君はまっすぐに公約を訴えます。◇思いやりにつながる挨拶を ◇メリハリのつくチャイム着席を ◇生徒ひとりひとりの考えを尊重し合える話し合いの場を ◇活気と笑顔溢れる学校を ◇自信と絆をキーワードに ◇お世話になっている地域の方々へ貢献を 等々です。

昨年度も同様の感想を抱いたのですが、気づくと、聴いている生徒諸君は水を打ったように静寂を保ち、顔を挙げています。ステージ上では、候補者と責任者の二人が気持ちを揃えて深々とあいさつをします。文末を「・・・お願いいたします。」と敬体を使いこなします。

ピンと空気が張り詰めるのは、まっすぐに候補者の諸君の思いを受け止めようとする全校生徒諸君がいてくれるからです。11月初めに行われた2学年内選挙を思い返していました。公約を伝える表情は、まだまだ声も小さくて、自信なげで、姿勢も定まらず、でも理念と目標だけははち切れんばかりに抱えていて、それをみんなに分かってほしくて、応援してほしい。そしてリーダーになって、みんなのために働きたい。・・・そんな思いが充満した候補者の皆さんのメッセージでした。また公約を支える責任者諸君がその人柄を押す理由を◇汚れた配膳台を自分から拭ける ◇学級で仲間をちゃんと注意できる ◇一人になって清掃に向き合える と、それぞれ伝えてくれていました。21人の候補者の真っ直ぐな志が、「51年目の第1歩」につながった学年内選挙でした。選挙活動を通して得た貴重な経験は、これからの生活に必ず生きていきます。

第51代生徒会を全校で、全力で支えていこうという思いにさせてくれる演説会でした。ここまで心を砕いて準備を整えてくれた選挙管理委員の皆さん、ありがとうございました。

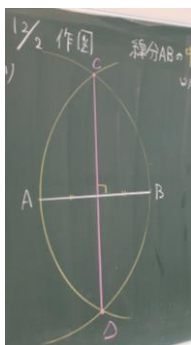
選挙を終え、新たに選出された橋爪駿介さん、渡利康生さん、石川瞳さんの三役諸君が週明けの職員室にあいさつにきてくれました。

・・・そしてとっても嬉しい知らせがありました。今年の生徒会選挙での投開票の結果、「無効票は0！」でした。これも生徒会員全員の気概そのものの表れです。



《 授業改善 ～ 書くこと・説明すること ～ 》

西中では「活用する力(書くこと・説明すること)」を高めようと教科会を中心に、授業改善に取り組んできました。各教科が授業の中での生徒の変容を通して、教科会として授業を振り返り、次の日の授業に生かしてきました。年内には最後となる数学科の授業が2講座、12月2日(水)にありました。



《 ひし形と垂線 》

まずは「ひし形の特徴を使って、線分の中点で垂直に交わる垂線を作図してみよう」を学習問題とした1年生「基本の作図」です。この授業の一番のポイントは「理由を説明する」ところです。まずは先生が「説明」のモデルを授けます。「線分ABとCDはひし形の対角線になる。ひし形の対角線は垂直に交わり、中点を通る特徴があるので、線分CDは線分ABの中点を通る垂線になる。」生徒はこのモデルを受け取り、追究課題に入ります。先生は「伝わるかな? 伝わらなかつたらもう一度ね。」と学んでいる仲間への理解を常に求めていきます。だから先生に説明するだけではなく、仲間に理解してもらえよう書き方や説明を常に意識しています。始めは何から着手していいのか胸に落ちず「ひし形」を頼りに垂線を描いていた生徒は、グルー

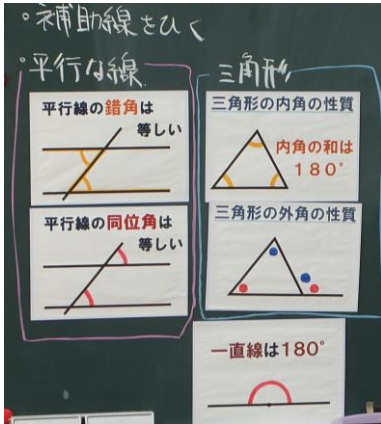
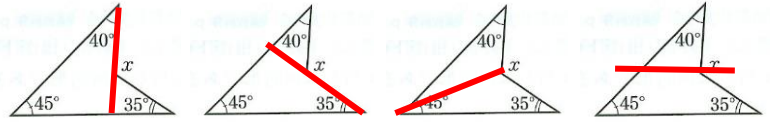


プの仲間の伝え合いを聞き、コンパスを手に取り、見よう見まねで作図を始めます。コンパスを用いて垂線を引きます。次々とコンパスを回して引いていきます。新しい学びのスキルが身についた追究でした。ずっと見ていて、その変化と一緒に喜んでやりたい、そんな瞬間でもありました。

《 目的のある補助線 》

12月2日(水)、数学科授業のもう1講座は、「学習した図形の性質を使えるように補助線を引き、 $\angle X$ の大きさを求めよう」を学習課題とした2年生「図形の調べ方」です。

この追究の最も際立っていた点は、追究の見通しが導入で明確に位置づけられていたことです。「平行線の錯角と同位角」「三角形の内角と外角の性質」等が、



学習問題を追究していく上での必要不可欠な条件として、確認しあい、生徒たちは課題解決のために、必要な条件を選択し、目的のある補助線を引き、説明していきます。活用すべき条件が板書されているのだから、生徒は安心して補助線を引き、三角形を作ったり、角を集めたりして、 $\angle X = 120^\circ$ であることの説明を試みていきます。数学科の追究で共通しているのが、「一定の分量で説明する(書く)こと」をいつも要求していること、そして仲間通同士で検討し合わせようとしていることです。

毎日、毎時間、たくさんの学習と追究に関わる生徒のケミストリー(化学変化)が、教室のそこそこに間違いなく確実に存在していたんだらうな、と懐かしく振り返ることができる年の暮れです。



ちょうど十年前の冬、新聞に掲載された作家 瀬戸内寂聴さんの『雪の中の若者たち～愛することを伝えたい～』を読み返していました。

く 雪の中を北海道余市の高校(当時、過疎化で生徒が減り、廃校間近であった高校を町ぐるみで協力し、下宿の面倒も見、高校中退者を積極的に受け入れていた北星学園余市高等学校です。参議員の義家弘介さんの母校ですね。)の40周年記念講演会に出掛けた。・・・セレモニーは滞りなく進んでいった。私は学校に入り、擦れ違う生徒たちから次々礼儀正しいお辞儀をされたことにまず驚いた。彼らは真っ直ぐ、私の目を見つめて頭を下げてくれる。私は迂闊にもこの学校がキリスト教の精神で支えられていたとは知らなかった。白い校舎の上の小さな十字架を仰いだとき、初めて様々な胸の疑問が一挙に解けた。挫折し傷心を抱いてこの町に向かった少年少女を熱い心で抱きしめたのは、この町の、この学校の大人であった。つまるところ教育とはそれしかない私は信じている。熱い心で抱きしめることで相手の悲しみや苦しきも、胸から胸へ伝わってきて、言葉はいらなくなる。相手の心を開かせないで、何の教育ができるというのだろう。

私は40分ほど話をした後で、生徒たちとの質疑応答に切り替えた。私の話に目を輝かせて身を乗り出すようにして耳を傾けてくれる彼らを見ていたら、もっと彼らと直接話をしたいという思いが込みあげてきたからだった。予想通り、彼らは次々手を挙げ、質問してくれた。「自分の弱さをどうやって克服できるのだろうか。」「将来の目的がまだつかめていない。その焦りをどうしたらいいのか。」「みんな真剣に私を見つめている。

私はひとりひとりに私の今の想いを伝えた。私が彼らを文句なく好きになったように、私もまた彼らに受け入れられているという手応えを感じていた。生きるとは愛することだ。人は愛するためにこの世に生まれたのだ。自分に誇りをもて!と私は声を大きくしていた。)

2015年が年の瀬を迎えようとしています。家庭に戻って家族の皆さんの中で、じっくり、ぼんやり考える時間を生徒たちが年末・年始にもてるよう、そうしてたっぷり豊かな滋養が体と心につき新しい年に向かっていけるよう願っています。

地域の皆様には1年間、ご理解とご協力を賜り本当にありがとうございました。来る1年もよろしくお願ひいたします。

良きお年をお迎えください。



(*12月29日(火)~1月3日(日)の期間、学校無人化とさせていただきます。)